

早起き院長のてげてげ通信  
—思いやりの医療と看護—

随筆かごしま社：tel：099-252-8121 fax：099-252-8123  
2007年 ISBN：978-4-9900566-7-4  
定価：1600円（税込み）



著者 福永秀敏（国立病院機構南九州病院 院長）

ちょうど2年前（2005年）の7月、日本医療機能評価機構の審査を受けることになった。サーベイヤーへの挨拶の仕方に始まり、職員手帳に書かれた当院の基本方針などを職員一人ひとりに周知徹底できないものかと考えていた折、院内LANを使う手を思いついた。

以降2年、ほとんど1日も休まず、毎朝6時頃から仕事を始める前の1時間あまり、その時々<sup>々</sup>の院長としての自分の思いや喜び、医療全般に関することをメール（院内125カ所）で発信してきた。

今回、ある縁で一冊の本にまとめることになったが、内容は患者さんの思い出や、ALSの呼吸器選択など、どちらかという<sup>と</sup>重たい話題をまとめた「生老病死の実相」、院長としての病院運営にともなう悲喜こもごもを綴った「病院は生きもの」、そして還暦を迎えるにあたっての故郷のことや、鹿児島に関する軽いノリの「人生いろいろ」の三部構成からなっている。今までの「難病と生きる」（1999年）、「病む人に学ぶ」（2004年）と同様、ともすると「かわいそう」というイメージで一括りされ<sup>ら</sup>れそうな難病患者や家族の懸命に生きる姿を伝えたい気持ちもある。

一番迷ったのがタイトルである。当初、「テゲテゲなるままに」と考え、旧知の仲間たちからは賛同を得たが、鹿児島では「テゲテゲは本当にいい加減」と考える人が多いようで、洒落は理解でき<sup>し</sup>ないらしく、多くの人の賛同は得られなかった。またちょうど同じ時期に、あの東国原知事が「宮崎県民はテゲテゲではいけない」と記者会見で言われたこともこたえてしまった。「あんたに、言われたくないよ」と言い返したいところだが。

ところが世の中わからないもので、いったん消えた「テゲテゲ」が再浮上し、結局「早起き院長のてげてげ通信 ～思いやりの医療と看護～」に落ち着いた。「思いやりの医療」は当院の3大目標の一つである。準備に取り掛かってから約3カ月、いろいろな人の協力で思いのほか短期間に出版の運びとなった。

このコーナーは会員の自著を紹介しております。

\*\*\*訂正記事\*\*\*

61巻7号484-489P 掲載の論文

「国立病院機構の神経内科病棟における PEG 造設と管理の現状」

の英文タイトルに誤りがございました。下記のように訂正いたします。

[誤] Present Conditions and Problems in the Departments of Neurology in the National Hospital Organization

[正] Control and Safety of Percutaneous Endoscopic Gastrostomy (PEG) for Neuromuscular Disease: Present Conditions and Problems in the Departments of Neurology in the National Hospital Organization